

日本初！2030年の看取り難民問題に立ち向かう。
 医師向け『在宅医療の教育プログラム』を開始。
 専門機関「やまと在宅医養成センター」を設立。

医療法人社団焔(ほむら)／TEAM BLUE(所在地：東京都板橋区、代表：安井佑)が運営する、在宅医療専門のやまと診療所が、在宅医としてのキャリアアップを支援する、「やまと在宅医養成センター」を設立しました。

<https://sites.google.com/teamblue.jp/yousei/ho>

◆設立背景◆

多くの方が『自宅で最期を迎えたい』という希望を持っているなか、実際は病院などが終の場所となる方が圧倒的に多くなっています。一方で病院の病床は不足しており、2030年には看取り難民が47万人に達するといわれています。そうした方々の受け皿として、在宅医療のニーズが高まり、**担い手を早急に増やしていく必要があります。**

そのような状況下、やまと診療所では、「自宅で自分らしく死ぬ。そういう世の中をつくる。」という理念のもと、患者さまのQOL向上につながる質の高い在宅医療を提供するため、その担い手である在宅医の確保と、診療スキルの向上に力を入れて取り組んできました。そしてこの度、私たちの活動をよりオープンにし、想いを共有する仲間をさらに増やすべく、在宅医専門の養成機関として、「やまと在宅医養成センター」を立ち上げました。

◆学習プログラムについて◆

やまと在宅医養成センターで大切にしているのは「人」です。一人ひとりの個性を磨き、育てていく環境が整っています。そして、**それぞれの能力に合わせた教育プログラムを提供します。**

blanksがあっても、未経験であったとしても、基礎知識をしっかり身につけられるので安心です。また、資格取得を目指す医師のための専門医プログラムもあり、学会参加や書籍購入等の支援制度も用意しています。やまと診療所は、地域包括ケア病棟の「おうちにかえろう。病院」、訪問歯科の「ごはんがたべたい。歯科」、訪問看護の「おうちでよかった。訪看」と連携しているため、患者さまをシームレスに支える医療体制が学べます。それぞれのライフステージに合わせてながら学習を進めていくことが可能です。以下に、4つのタイプの医師に向けたプログラムをご紹介します。



① 後期研修医の専門研修プログラム

3年目の医師は、専門医取得を目指して、各病院の専門研修プログラムを学ぶことが必須です。当センターでは、**総合診療医の取得が可能**となります。

2023年度より、2名の研修を開始します。

② ドクターの、セカンドキャリアとしてのキャリアアップ

やまと診療所で働くことを選ぶ医師は、元大学病院勤務で「大学病院を退院したあとの患者の生活をもっと知りたい」、「総合診療医を学び、自宅で過ごすことに繋がる在宅医療を経験したい」、「在宅医療経験はあるが、もっと大きな視野で見たい」など理由は様々です。しかし、**在宅医療は体系的に学ぶことができる施設が少なく、「一からしっかりと学ぶ場所がほしい」という声も多く**、セカンドキャリアの方向けのプログラムを作成しました。

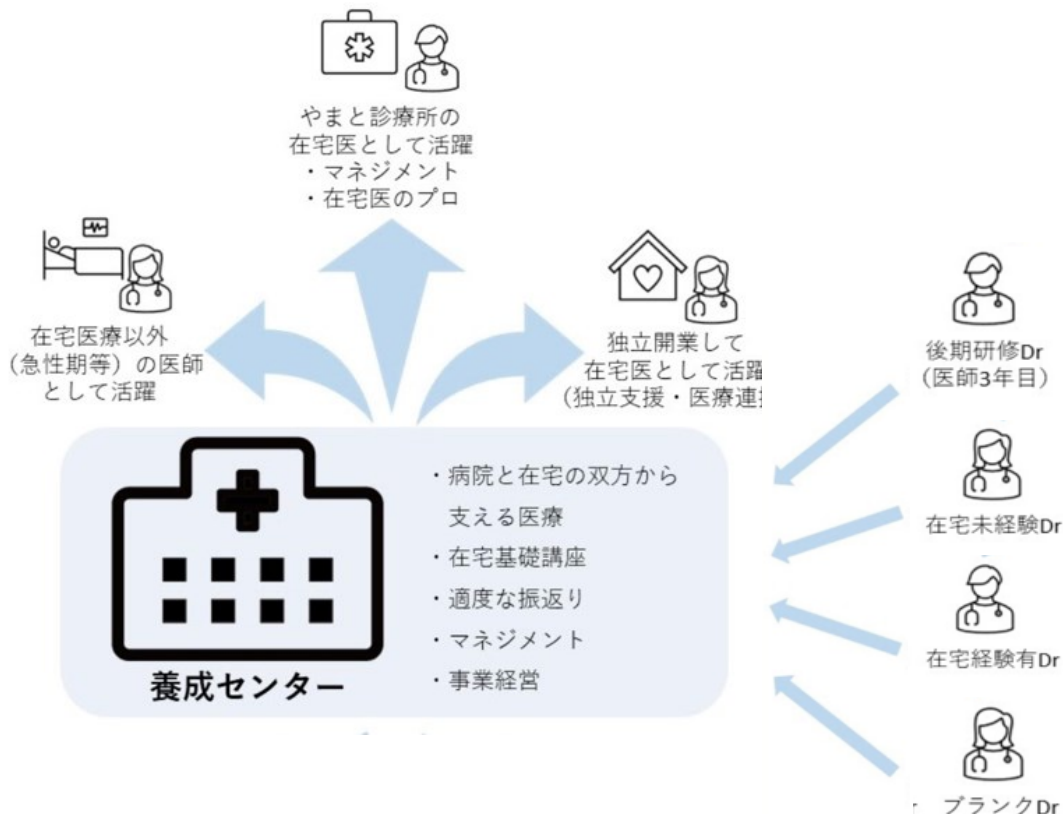
③ ブランクのあるドクター

出産や子育てなどでブランクのあるドクターをサポートします。

外来担当だと、患者さんの人数によって、勤務時間が変動してしまうため、子育て中のドクターが働きづらい現状があります。やまと診療所では、チームで情報共有をするため、決まった時間内で働くことが可能となっています。**プライベートも学び直しもしっかりサポート**することで、長く現場で活躍できる環境をつくります。

④ 独立開業医の支援

将来独立したい医師への支援プログラムです。独立開業には、医師としての仕事だけでなく、**マネジメントや経営力**が必要となります。経験者である代表の安井が、10年のノウハウをもとに定期的に相談に乗りアドバイスを行います。また、開院後は他の医療機関との情報交換の機会がなく、孤立してしまう医師も多いため、やまと診療所の朝のカンファレンスに参加いただくなど、独立後のサポートも行います。



◆やまと在宅医養成センター長 石川 元直 医師からのご挨拶◆



超高齢社会を迎えた日本では、長生きを目指す医療から、避けることのできない「死」という運命にしっかりと向き合い、いつか亡くなるその時までどう過ごしたいかという、看取りの質を高める医療が求められています。私たちは患者さんやご家族が何をしたいかを一緒に考え、残された大切な時間を豊かでより良いものにできるように一緒に歩みます。絆、ぬくもり、幸せといった「学ぶべき医療の原点」が在宅医療にあります。

当院で在宅医療を受けている患者さんの疾患は多岐に渡り、終末期だけではなく、時には救急搬送をしたり、急性期の治療を在宅で行ったりすることもあり、総合診療的なアプローチが必要です。在宅医療は患者さんの自宅という密室で行われるため、外からは何をやっているのか見えづらいという問題がありましたが、当院ではトレーニングを受けたPAによって診療中の患者さんやご家族との会話が診療録に記録され、担当医に定期的なフィードバックを行うようにしています。臓器別専門医も多数在籍しており、近隣の急性期病院との交流も盛んです。在宅医療を受けている患者さんが入院しても、協働して患者さんをシームレスに診ていくことができます。当院の在宅医療は総合診療を学ぶ絶好のフィールドです。

在宅医療は決して医師一人ではできません。豊かな時間を実現させるためには、患者さんやご家族、そして多職種を巻き込んで「みんなで考える」というプロセスが重要になります。そんな在宅医療という「場」の力が、医師として、人として、大きく成長させてくれます。経験は問いません。総合診療や在宅医療に興味がある医師の皆さん、まずは見学にいらしてください。是非、私たちと一緒に考えましょう！

■医療法人社団 焔（ほむら）について

「自宅で自分らしく死ぬ。そういう世の中をつくる。」を理念に掲げ 2013 年から東京都板橋区で在宅医療「やまと診療所」を運営するなかで、医療グループ [TEAM BLUE](#) を結成。「おうちにかえろう。病院」「おうちでよかった。訪看」「ごはんがたべたい。歯科。」を立ち上げました。当事者である患者様及びその家族との対話を重ね、オープンに意思決定できるようにサポートします。入院でも在宅でも「私らしい生き方を理解してくれる」チームの、医療サポートを受けることを可能としています。

■法人概要

法人名：医療法人社団 焔（ほむら）
理事長：安井 佑
設立：2013年 4月
所在地：〒174-0074 東京都板橋区東新町 1-26-14

■やまと診療所概要

法人名：医療法人社団 焔（ほむら）
院長：小野寺 志眞
設立：2013年 4月
所在地：〒174-0074 東京都板橋区東新町 1-26-14

 やまと診療所